

ファイターズリー 2代目見参

ツナヒキイエロー アカガワラレッド ヒジキブラック



新メンバーで生まれ変わった「ヨナバルファイターズリー」のステージ=7月31日、与那原町御殿山青少年広場

存続危機乗り越え

【与那原】与那原町のローカルヒーロー「ヨナバルファイターズリー」が世代交代し、新メンバーで生まれ変わった。同町御殿山青少年広場で開かれた与那原まつりで本格デビュー。地域性あふれる新物語で堂々とした演技を披露した。

与那原

「心育てる物語に」

「ヨナバル」は「与那」02年に誕生した。キャラクターは「赤瓦」「ヒジキ」といった同町の特産物をモチーフに、20「ツナヒキ」「ヒジキブラック」

【3】3人。町商工会青年部の役員が役者、監督、脚本すべてこなしてきた。交流のあった南風原町のローカルヒーロー「黄金戦隊かぼちやマン」が10年に活動休止したことや、ボランティアで続ける難しさから、同青年部は廃止も含めて検討してきたが、新人部員らが役を引き継いだ。与那原まつりは7月31日に開かれた。2代目アカガワラレッドの喜屋武一力さん(29)は土地家屋調査士は舞台前「手探りの状態だが、張り切つてステージを披露したい」と力を込めた。新物語は同町親川の湧き水を腐らせようとたくらむ悪のオニヒトデ軍団から、湧き水の守り主で新登場の「エーガー長老」と共に地域の絆を守る内容。舞台を楽しんだ安里恒作君(琉大付属小5年)は「与那原のヒーローは格好良かった。悪の軍団が出る場面はドキドキした」と興奮した様子。悪の軍団の一員と脚本、監督を引き継いだ天久裕太さん(28)は「民宿経営」は

「子どもたちの声援は、うれしかった。今後完成度を高めたい」と意気込んだ。初代ヒジキブラックで脚本、監督を務めた新垣信人さん(34)は「ネット販売業」は「地域への強い思いを感じた。子どもたちの心を育てるような言葉や物語をたくさん織り込んでほしい」と期待した。(中地由希香)

(2011年8月21日付 25面)

☆みんなの街にローカルヒーローを作るとしたら、どんな色でどんな名前を付けるかな？
考えてみよう！

年 組 名前